

1 地方鉄道におけるマイレール意識とまちづくりの取組

多くの地方鉄道が乗車人員の減少等により存続が危ぶまれる中、鉄道を利用する学生時代から「マイレール意識」を持つことや鉄道を幹とした魅力的なまちづくりについての事業を行政側と共に学生に考えてもらい、私の鉄道、私のまちという思いを形成することを目指しました。

2 取組概要

三岐鉄道北勢線におけるマイレール意識とまちづくりの取組については、北勢線事業運営協議会と四日市大学の学生で、コラボ企画を検討しました。

検討の結果を踏まえ、県内高等教育機関（四日市大）の学生が、園児向けに乗車マナーを啓発し、電車で親しんでもらうための手作り紙芝居を作成し、北勢線事業運営協議会と四日市大学で実施している毎年恒例の北勢線のサンタ電車のイベント（12月20日）で、紙芝居を披露しました。

（1）オリエンテーション等

参加希望の大学生に対して、「学生」×「地域」カフェなどの県事業の趣旨や内容の説明を行い、北勢線事業運営協議会のメンバーからテーマである「鉄道におけるマイレール意識とまちづくりの取組への協力」の趣旨と今後のスケジュール等を説明しました。

（2）企画検討会の開催

イベント企画について参加学生がそれぞれアイデアを出し、具体的な取組内容について提案しました。その後、それぞれの企画をブラッシュアップして企画提案書を作成し、企画の実現に向けて準備を進めました。

（企画検討会の様子）



(3) イベント当日における協力

平成26年12月20日(日)に西桑名駅ホームにおいて、学生の企画である子ども向けの紙芝居を行いました。

当日、三岐鉄道北勢線では、サンタに扮した四日市大学生が電車内で子供達にお菓子等を配布するサンタ電車を走らせており、西桑名駅のホームでは、地元市町のゆるキャラ4体が発着電車のお見送りや歓迎をしていました。

参加学生は電車の発着のタイミングに合わせ、3回、子ども向けに紙芝居を披露しました。四日市大学生が作成した紙芝居のストーリーは、ゆるキャラ4体を登場させ、乗車マナーを心得たゆるキャラ1体が、3体に教えながら北勢線終点にある阿下喜温泉に向かうというものであり、子ども達へは、紙芝居の途中にその内容に合わせたマナークイズも行いました。

(イベント当日の様子)



